

第1回 橿原市総合政策審議会 議事録

日時：令和元年6月4日（火）
午前9時30分～11時30分
場所：分庁舎2階 会議室A

<出席者>

- 委員：東委員、飯田委員、石川委員、大城委員、尾田委員、桐山委員、小西委員、佐伯委員、清水委員、土井委員、中澤委員、久委員、前川委員、牧野委員
- 市：森下市長、岡崎副市長、吉本教育長、中西総務部長、福西総合政策部長、山風呂総合政策部部長心得
- 事務局：西村総合政策部副部長、中井企画政策課長、池田企画政策課長補佐、谷本統括調整員、友井係長、八田主査、杉本主査、中尾主事、大前主事、川野主事

1. 開会

2. 市長挨拶

森下市長 皆様、おはようございます。お忙しい中、ご出席賜りましてありがとうございます。また、総合政策審議会委員へのご就任をご承諾いただき、心より感謝申し上げます。

第4次総合計画の策定にあたりまして、前期5年と後期5年を合わせての10年が計画期間となりますが、これから先の10年、どのようなまちをイメージするかの話し合いを、そして今の市民の皆様がどう思っているのか、たくさんの情報をいただきながら、進めていきたいと思っております。

ただ、令和に入って1ヶ月になりましたが、これからの10年はとても速いスピードで進むと考えられます。今の時点で、いろんなことを想定しながら、10年先を見て進めなくてはならないと大変責任が重い作業になってくるかと思っております。

委員の中には、JRから清水様にも来ていただいております。奈良県は近鉄電車ばかりで、JRと一緒に話しながら何かをするということが少なかったのですが、今年の4月より奈良から新大阪へ直通便ができました。また、万葉まほろば線に新しい車両が導入されました。新しい車両にはトイレが付くのですが、1日500人前後の利用のある多くの無人駅のトイレがなくなってしまうという問題も抱えています。橿原市としては、本庁舎が南に移動することになり、畝傍駅に近づくのですが、畝傍駅と新庁舎を一体的にまちづくりを進めていけないかとも検討しています。我々の暮らすエリアから約1時間で新大阪に行けることは発信していきたいと考えています。

大阪と奈良が非常に近くなり、ここ数年の大阪の状況をみると、I Rや万博があり、大阪には良い風が吹いています。我々としても大阪での風をうまくキャッチできるようにしなければならないと考えています。

また、この10年間で、飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群の世界遺産登録を確実に目指します。10年先には、県内で、特に競技施設が整う橿原市で国体開催という声も耳に届いています。今から目指しておかなければ、急に動けるものでもありません。総合計画策定にあたっては、これらの動きを想定しながら、いろんな想いを入れていただければありがたいと思います。

10年間でもっといろんなことが出てくるかと思しますので、我々の未来を、橿原市だけでなく、奈良県を含めたすべて、関西一連の事柄として捉えて進めなければならないと思っています。その中で、橿原市としても着実に進んでいきたいと思しますので、大変実りのある審議会にさせていただけるようお願い申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

3. 出席委員紹介

事務局より委員紹介。

4. 会長・副会長選任

久委員を会長に選任。

久会長が飯田委員を副会長に選任。

久会長

皆様方のお力を借りながら、この審議会を進めて参りたいと思います。よろしくお願いいたします。

大和八木駅を持っている橿原市は交通の主な地でございます。また、おおさか東線の開通の話がありましたが、私どもの近畿大学もおおさか東線の恩恵にあずかっているのですが、私の家からはJ Rの茨木駅ということで、新大阪でおおさか東線に乗り換えて大学まで通っているのですが、朝夕だけに奈良駅から直通の快速が来るわけですが、朝の快速は超満員の状況で新大阪駅を降ります。そういう意味では、市長がおっしゃったように、おおさか東線と大和路線が繋がったことは、奈良にとっては絶好のチャンスではないかと思っています。

少し話が長くなりますが、公職としては橿原市には環境審議会のお手伝いをさせていただいており、個人的には今井町の町並み整備のお手伝いをしてきた関係で、橿原市はご縁のある場所でございます。橿原市は藤原京から始まり、古代、近世、現代につながる歴史的な資源が非常に豊かな地でございますので、これらも上手く活用しながら今回の総合計画をまとめていって、10年後の橿原市がよりよいものになるよう、皆様の知恵をお借りしたいと思っています。よろしくお願いいたします。

5. 諮問

市長より久会長に諮問。

6. 議事

1) 檀原市の概要について

(事務局より資料1について説明)

清水委員 先程の説明の最後の箇所について、人口が減少しており、コストも増えている関係で、将来、市はやっていけるのかというのが気になる点です。将来、収入を少なくとも維持していき、コストを抑えていくという形でやっていけるのであれば、さほど大きな手を打たなくても良いということですが、収入を増やしたりコストを減らしたりする必要があるという前提で総合計画を策定することになるのでしょうか。

事務局 委員のおっしゃるとおりでございます。この総合計画は第4次になりますが、第1次は平成元年に策定されています。人口が増加傾向にあった平成元年と比べると、現在、人口は減少傾向にあるものの、予算規模は膨らんできています。人口減少時代においても予算を維持するのではなく、持続可能なまちづくりを進めるためには、現実路線といえますか、費用対効果等を見ながら進めていく必要があると考えています。委員の皆様のご意見を賜りながら、現実を見据えた総合計画を策定していきたいと考えています。

久会長 次回以降の審議会の行財政分野の議論の中で、より詳細な議論をしていただくことになると思いますので、その時にもご意見を賜りたいと思います。

2) 檀原市第3次総合計画の総括について

(事務局より資料2について説明)

飯田副会長 次回以降の話になると思いますが、この資料に載っている行政側の評価と、市民の満足度が逆転している分野、例えば教育などがあります。行政側の評価と住民側の満足度が大きく乖離しているものがあります。また、資料3の2ページに出てくる「イメージ」があるのですが、これら3つがうまく噛み合っていないと感じます。檀原市のイメージ、教育環境が良いが37.1%、どちらかといえば満足度に近いと思いますが、それが施策評価の方では頑張れたという評価になっています。このような乖離についての議論は次回以降になるのでしょうか。

事務局 市民アンケート調査を基にしたデータと、行政側の評価の結果との間で乖離が発生している状況にあります。事務局においては、第2回、第3回の審議会に向けて、その整理を行っております。行政側ができたと思っている部分について、市民側が

満足していない部分、その逆も考えられますが、何が乖離の原因になっているのかは、分野ごとの個別計画にそのデータがないのかどうかを調べていきながら、検証していきたいと思っております。

飯田副会長 資料2が総括だと思っておりますが、乖離の原因も含めたものが本当の総括だと思っておりますので、踏み込んでいただきたいと思っております。

久会長 推測ですが、アウトプットの評価とアウトカムの評価との間でズレが生じているのかと考えています。特に行政側の評価はアウトプット評価が多いのですが、本当に効果が出ているのかどうか、アウトカムを見越していくと違う評価になるかもしれません。次回以降の審議会で議論できればと思います。

30年ほど今井町の応援させてもらっています。今井町は江戸時代には豪商が多く、お屋敷が大きいです。お屋敷が大きいということは、リノベーションでお店に改装するには大きすぎて、一軒貸しができないという悩みも聞いています。現在、店舗に変わっているものは小ぶりの町家が多いと考えられます。大きなお屋敷をどのような形で次の時代に活用していくか、という悩みも聞いています。このように深く見ていくと違う課題も浮き彫りになってきますので、次回はもっと踏み込んで議論をさせていただければと思います。

3) 檀原市第4次総合計画の策定について (事務局より資料3について説明)

清水委員 「まち・ひと・しごと」の計画を含むとの説明でしたが、実際は「まち・ひと・しごと」の計画を他で検討されているところがあり、その内容をここに反映させる方向なのでしょうか。あるいは、我々が考えた内容を「まち・ひと・しごと」で深めようという方向なのでしょうか。

事務局 「まち・ひと・しごと」の内容についてもこの審議会でご審議いただく予定になっておりますが、総合計画と総合戦略はそれぞれ別にワーキンググループを設置させていただき、それぞれで案を作っていただき、その案を基にご審議いただく形を考えております。

久会長 他の市では「総合計画審議会」との名称を使用しているケースが多いのですが、檀原市では「総合政策審議会」という名称にさせていただきました。というのも、総合戦略も共に考える審議会という意図でございます。今日は総合計画の説明をいただいたが、別途総合戦略の説明もいただけるということですのでよろしいですね。

佐伯委員 仕事柄、どうしても高齢者の福祉、疾病予防に関心が高いのですが、今日お話を

いただいた内容、例えば橿原市の良いところは歴史的背景が豊かである、周辺の土地との利便性が高く、人の出入りがスムーズにできるということがあると思うのですが、例えば観光で人がたくさん入ってくる、住んでいる人が周辺都市に観光等に出ていくことについては様々なビジョンが出されていると思うのですが、一方で住民が高齢化していき、将来ビジョンに書くと暗くなるので良くないかもしれませんが、橿原市に住んでいる人がどうやって自立した生活を一日でも長く営んでいくのか、それに対して病院が充実していたら良いというわけではなく、橿原市に住んでいればそういう生活が自然と長く保たれる仕組みが理想的だと考えています。

第3次総合計画で謳われている「交流」というのは、ここに住んでおられる方の「交流」ではないかと思います。あるいは、歴史的背景が活かされるべきなのは、自分たちの住んでいる地域やその歴史を知り、交流することのきっかけになる、あるいはコミュニティの人たち同士の交流が盛んだと自立生活が長く送れるという医学的エビデンスは多いので、スポーツ施設の利用者が自然に増加しているというのは、そういったサービスを利用して自分たちの健康を維持しようという関心の高い方が増えているという現れではないかと思います。

また、交通の面では車の運転ができない方が、自分たちの生活を維持するために買い物等をどこまで完結できているのか。先ほどのコミュニティバスの利用者の増加の話もありました。

このように生活機能がある程度落ちたとしても、どのレベルでも自立した生活を保障するような仕組みにしていくといった、市の目標としては明るい未来を謳っているように見えないかもしれませんが、高齢化が進んでニュータウンの人口が減ってきている状況のなかで、住んでいる人を守って大事にしていく視点も将来ビジョンとして良いのではないかと考えています。

久会長

最後に将来ビジョンの4案を示していただき、2つに「交流」という言葉が入っておりますが、どうも市外との交流というイメージが出ているので、もう少し市内での交流という観点も入れていただければ、よりこの言葉に重みが出てくるというご指摘でございますので、庁内でご検討いただければと思います。

東委員

今のご意見に重ねると、ちょうど2025年の万博のテーマが「いのち輝く未来社会のデザイン」になっており、6月29日に大阪でスーパーシティスマートシティフォーラムが行われます。そこでは、幸福な生き方をどうしていくのか、「幸福」に関するテーマが強くなっています。どの自治体でも人口減少していく中で、市民アンケート調査でも外から引っ張っていくのは無理だろうという意見が多い。今の文脈でいうと国連のSDGsだが、持続して幸福で住めるようなまちをどう作るかというところは世界経済フォーラムでも話をしているが、世界はそちらに流れています。

大阪で万博を迎えるにあたり、日本からのメッセージとして、日本が一番超高齢化が進んでいるので、認知症の方でも負担無く過ごせるまちをどのように作るのか、というところが日本から出せる価値ではないかと議論されています。アジアの周辺

国もこれから高齢化を迎えるわけですので、日本は注目されていくことになり、橿原市としてもスポーツ利用者が増えているといったグッドニュースを中心に、コンパクトなのでまとまりやすいところがありますので、ビジョンの考え方に含めてはどうでしょうか。

もう一つは、6月の経済財政諮問会議で安倍首相が「IoTなどの新技術を活用したスマートシティをまちづくりの基本とする」ということで、人手は無理なので、最新技術を導入しなければならないと諮問会議で話されて、国土交通大臣を中心に動いております。10年後を見据える時には、最低限、人の幸福を支えるために、使えるところはどんどん自動化し、仕分けなどルーティンは技術で対応といった、時代背景も含めて議論すると良い計画ができると考えています。

久会長

今までのワークショップを拝見しておりまして、ワークショップというのはそこに参加されている方の現在お持ちの知識、経験で議論される傾向にあります。しかし、最新技術やユニークな取組事例はどんどん世界中で動いているわけです。最先端の情報や世の中の方向をしっかりと見据えながら補強していただきますと、かなり未来志向の傾向になっていくと期待しております。市長のご挨拶の中でもここ10年でかなり変わっていくだろうというお話がありましたので、そのあたりを、この数ヶ月で補強していただければと思います。

先程、東委員にお話いただいたように、最近AIで、ルーティンの簡単な業務は機械がやってくれるようになっていきますので、そういう技術を市役所が導入することによって、ルーティンに携わっていた方々の人件費が減りますが、一方で人間にしかできない仕事はありますので、人間がそういう仕事ができる体制に持っていくとかかなり大きな仕事改革も含めて考えていただく時期になっておりますので、未来志向の新しい情報を入れながら、補強していただければと思います。

桐山委員

感想に終わってしまいますが、中学生のアンケートを初めて実施されたということで、これから先の社会を担う若い人たちがこの橿原市に住みたいと思えるまちにするために重要なこと、その項目をみると「地域活動を活発にする」というのがすごく低くなっています。今どきの若い人は便利なことが当たり前の中で暮らしていますが、人と人とのつながりの大事さは若い人たちにも知っていただきたいと思っております。地域活動を活発にすることが住みやすいまちにすることだということを若い人たちにも知っていただきたいと思っております、27.4%というのは私にとっては寂しい数値だと思えました。

久会長

中学生アンケートで、今の中学生の一番多い回答は「遊ぶ場が多い」ということになっていますが、これをそのまま鵜呑みにしていいのかどうかということだと思います。アンケート結果は結果として受け止め、しかしそれを伸ばしていくのか変えていくのかという戦略を議論していただければと思います。

ちなみに、地方創生のトップランナーといわれる徳島県神山町では数多くの最先端

技術を持った方が移住されていますが、その方々と小中学校の先生方の協働が進んでいます。例えば、ドローン技術を開発している会社が神山町に移ってきたが、その技術を中学生の授業の中で教えていただき、技術者になるという夢を子どもたちに抱かせるような上手い協働が進んでいます。子どもは大人の背中を見て育ちますので、生き生きと頑張っている大人がどれくらい地域で暮らしているのか、その方々が上手く教育の現場で協働ができるような取組が進んでいくと思うので、協働の施策分野が話題に出た際には深い議論をさせていただきたいと思います。

大城委員 市民アンケートについて、意見のまとめとして、人口減少時の政策には子育て政策が重要という意見が最も多いとありますが、檀原市の子ども・子育て会議の中で、市の子育て施策の課題として挙げられているものがあれば、次回以降に教えていただければと思います。

久会長 時間的にもちょうど2時間になりましたので、今日は情報提供をいただきながら、次回以降の議論の様々な情報共有に留まりましたが、今回は大きな柱の部分を議論していただき、次々回以降は分野ごとにしっかりと議論をさせていただければと考えております。

他にご意見はございますか。ないようですので、これで本日の議事はすべて終了いたしました。委員の皆様には円滑な議事進行にご協力いただきまして、ありがとうございました。それでは、事務局の方にお返しいたします。

7. その他

8. 閉会

以上